

# 競 技 注 意 事 項

本大会は、2024年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項によって行う。

## 1 練習について

練習は、メイン競技場、補助競技場および多目的広場（※10月13日（日）のみ利用可）、雨天練習場を原則とする。

### ①メイン競技場

- ア.トラックのみ利用を認める。ただし、競技の準備を優先とする。
- イ.利用時間は、開場から競技開始30分前までとする。
- ウ.設置しているハードルを利用した練習は認めが、ハードルの移動は認めない。

### ②補助競技場

- ア.レーンの使用については以下の通りである。
  - ・1～2レーンは周回練習のみ使用可とする。
  - ・3～4レーンは短距離練習のみ使用可とする。
  - ・ブロックを使用したスタート練習は多目的広場側直走路6～10レーンのみとする。
  - ・多目的広場側直走路8レーンは中学女子100mH、9レーンは女子100mH、10レーンは中学男子110mH、11レーンは男子110mHとする。
  - ・第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路の5レーンは女子400mH、6レーンは男子400mHとする。
- イ.道具（マーカー、ミニハードル、ラダー等）を使用した練習は禁止とする。
- ウ.投てき競技（砲丸投のみ）の練習はトラック外側の砲丸投ピットで行うことができる。その際、係員の指示によって行う。

### ③多目的広場（※注：10月13日（日）のみ、12時30まで利用可、以降は利用不可）

- ア.多目的広場は円盤投の練習のみ利用できる。周囲の安全に配慮して行うこと。
- イ.円盤投の練習は立ち投げのみとする。
- ウ.円盤投の招集完了時刻以降の利用はできない。

### ④雨天練習場

- ・雨天練習場でのピストルの使用は禁止する。
- ・雨天練習場へは、第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止する。
- ・シート等を敷いて独占的な使用をすることを絶対にしない。
- ・ウォーキング・ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。以外は、補助競技場で行うこと。
- ・ウォーキング・ジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
- ・ハードルは使用できない。

### ⑤棒高跳について

競技開始80分前から現地にて跳躍練習を行うことができる。ただし、他の競技に影響がでないように、審判員の指示に従うこと。

### ⑥投てき練習

ハンマー投は、競技開始70分前からメイン競技場で練習ができる。

## 2 スパイクシューズ等の制限について

全天候競技場であるため、スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳・やり投は、12mm以下とする。

### 3 アスリートビブスについて

- ①アスリートビブスは指定された数字が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技（走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳）に出場する選手はどちらか一方でもよい。
  - ②トラック競技に出場する選手は、主催者が準備した腰ナンバー標識を必ずパンツの左右横やや後方につけること。
  - ③3000m以上の種目は別ナンバーカードを使用する。
- ※別アスリートビブスは招集所にて配布する。

### 4 選手招集について

- ①選手招集場所は、**第2ゲート付近**とする。
- ②招集時刻は競技時間を確認すること。  
※1：棒高跳・ハンマー投は、現地で招集を行う。  
※2：参加人数の多い種目については、段階的に招集を行うので、競技時間に記載している招集開始時刻、招集完了時刻を確認すること。
- ③招集完了時刻に遅れた選手は棄権とみなす。
- ④リレーのオーダー表は招集完了時刻1時間前までに提出のこと。  
※一度オーダー用紙を提出したら、その後の変更は、招集完了時刻までに主催者が任命した医務員が判断し、総務の許可を得ること。
- ⑤2種目を同時に兼ねて出場する選手は、あらかじめ競技者係に申し出る。

### 5 競技について

- ①競技順は、プログラム記載の番号順とする。
- ②その競技をする選手以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。
- ③トラック競技のスタートについては、下記のとおりとする。  
「不正スタートについて、各レースでの不正スタートは1回目からすべて失格とする。」
- ④短距離走では選手の安全のため、決勝線到着後も自分に割り当てられた走路を走ること。
- ⑤予選におけるトラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。トラック競技の決勝については、主催者側が公平に抽選をし、その結果を番組編成表示板に掲示する。
- ⑥トラック競技において、同記録者がでた場合は、写真判定主任により写真を拡大し細部（電気時計1/1000）まで読み取り着差の判定をする。ただし、着順優先とし、各組上位者のみとする。
- ⑦レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- ⑧下記の種目については、予戦をタイムレースで行い、上位8名で決勝を行う。  
男子 1000m・2000m・4000m・8000m  
女子 1000m・2000m・8000m
- ⑨男子5000mは、グループスタートで行う。
- ⑩4×100mリレーのマーカ―は、1カ所のみ使用することができる。使用したマーカ―はそのチームで処理すること。
- ⑪4×400mリレーに出場するチームの第2～第4走者は、胸に別アスリートビブスを使用する。また第2・第3走者は通過順位確認のため、パンツの左右横やや後方につけること。別アスリートビブスは招集所で配布する。
- ⑫競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。
- ⑬選手は、携帯電話等の通信機器・ビデオ・デジタルカメラ等を競技エリア内に持ち込むことはできない。選手は、コーチエリア付近（エリア指定あり）で選手に手渡しして映像を見せることができる。選手が指定エリア外に機器等を持ち込むことはできない。なお、メインスタンドから撮影機器を手渡しすることは禁止とする。コーチエリアでのコミュニケーションが終了したら、速やかにコーチエリアから出ること。

- ⑭走高跳の最初の高さは、男子：1 m 5 5、女子：1 m 2 5からとする。  
棒高跳の最初の高さは、男子：3 m 2 0、女子：2 m 2 0からとする。

- ⑮走高跳・棒高跳のバーの上げ方については、下記の通りである。

		練習									以 降
走高跳	男子	150	155	160	165	170	175	180	185	188	3 cm 刻み
	女子	120	125	130	135	140	145	150	153	156	3 cm 刻み
棒高跳	男子	300	320	340	360	370	380	390	400	410	1 0 cm 刻み
	女子	200	220	230	240	250	260	270	280	290	1 0 cm 刻み

- ⑯三段跳の踏み切り板の位置について、男子：1 1 m、女子9 mとする。

## 6 競技用具について

①競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。ただし、やりは検査において合格したものに限り使用が認められる。やりの検査は競技開始60分前から招集開始時刻までに競技場第1ゲート付近で行う。検査に合格したやりは、一括借り上げし、参加競技者で共有できるものとする。借り上げたやりは、その競技終了後、競技場第1ゲート付近で返却する。なお、借り上げたやりが破損しても責任を負わない。個人所有のポールの検査は最終点呼時に跳躍審判が行う。

②練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んで서는ならない。

## 7 表彰について

各種目3位までの入賞者に賞状を授与する。

※ただし、表彰式は行わないので、1～3位までの入賞者は、メインスタンド下、正面玄関付近に賞状を取りに来てください。

## 8 その他

①やむを得ず棄権するときは、競技者係まで必ず届け出ること。

②応急処置を要する健康上問題が発生したときは、スタンド下の救護室に連絡すること。

③更衣室は利用してもよい。

④記録は、記録の掲示については行いません。なお、記録速報を愛媛陸協HPから確認できます。

⑤プログラム配布はメインスタンド下、南エントランスの大会受付にて行います。

※本大会は、1所属 1部 プログラムを購入することとなっています。

⑥参加料の納入はメインスタンド下、南エントランスの大会受付にて行います。